



東下史卷之八
下

9
3898
止



9
3898
號卷

賣下先安樂傳授下之卷

賣下生曰次誰也順安也無不氣はあ

○私に世末町小住居つゝまも香具屋何事愉快でござり

まもる。あふ多秘府合ふ。ふ家世を承りまうとこのあ

御もり。あふ多秘府合ふ。ふ家世を承りまうとこのあ

源。成今ふふも。あは宜物のもてなれ。い

臨。も先。もゆ。もま。あ。是。ふ。母。者。の。氣。不。病。を。松。を

捕。く。毎。日。人。彼。女。も。を。切。移。の。娘。を。娶。ふ。を。解。人。の

早稲 大學 蔵
27.6.25
蔵 書

何の^{なん}も^もや^やね^ねる^るま^まに^に粹^{すい}い^いの^のも^もた^たい^いは^はあ^あり^り。
定^{さだ}めて^め粹^{すい}い^いの^のハ^ハも^も拙^{せつ}の^の男^{おとこ}も^も美^{うつく}し^しい^いの^のう^う又^{また}拙^{せつ}り^り
あ^ある^ると^と人^{ひと}名^なを^を他^た又^{また}己^{おのれ}の^の業^{わざ}を^を疎^そく^く何^{なん}と^とも^も
と^とも^もや^やい^いふ^ふ名^なの^のた^ため^めに^に又^{また}己^{おのれ}の^の方^{かた}に^に銀^{ぎん}子^こを^を
や^やも^もに^に貯^{たくわ}へ^へて^てい^いた^たま^まし^しお^お金^{かね}を^をう^うも^もう^うい^いふ^ふ家^けを^を
ま^まて^ても^もな^なく^くい^いま^まや^や親^{おや}や^や兄^{あに}や^や弟^{てい}や^や女^め房^{ぼう}子^こを^を誅^つく^くは^はら^らて^て
拙^{せつ}家の^の老^{ろう}ふ^ふ情^{じやう}を^をも^もも^もえ^えて^てう^うて^て収^{おさ}め^めよ^よう^う粹^{すい}
して^{して}き^きる^ると^とい^いふ^ふを^をね^ねま^まを^をお^お金^{かね}は^は毎^{まい}一^{いち}の^のう^う

粹^{すい}い^いの^のも^もや^やね^ねる^るま^まに^に粹^{すい}い^いの^のも^もた^たい^いは^はあ^あり^り。
耳^{みみ}を^をも^もた^たい^いふ^ふ國^{くに}を^をも^もた^たい^いふ^ふ人^{ひと}
○息^{いき}子^こを^をも^もた^たい^いふ^ふて^て日^ひを^をも^もた^たい^いふ^ふ中^{ちゆう}に^にい^いふ^ふ人^{ひと}
と^とい^いふ^ふに^にあ^ある^るも^も。既^{すで}に^に古^この^のあ^ある^るも^も。粹^{すい}い^いの^のか^かも^も
粹^{すい}い^いの^のも^もや^やね^ねる^るま^まに^に粹^{すい}い^いの^のも^もた^たい^いは^はあ^あり^り。
粹^{すい}い^いの^のも^もや^やね^ねる^るま^まに^に粹^{すい}い^いの^のも^もた^たい^いは^はあ^あり^り。
成^{なり}ま^ませ^せぬ^ぬは^は粹^{すい}い^いの^のも^もや^やね^ねる^るま^まに^に粹^{すい}い^いの^のも^もた^たい^いは^はあ^あり^り。
カ^カメ^メツ^ツと^とい^いふ^ふ天^{てん}を^をも^もた^たい^いふ^ふア^アと^とい^いふ^ふカ^カと^とい^いふ^ふも^もあ^ある^るク^クロ



[illegible][illegible]

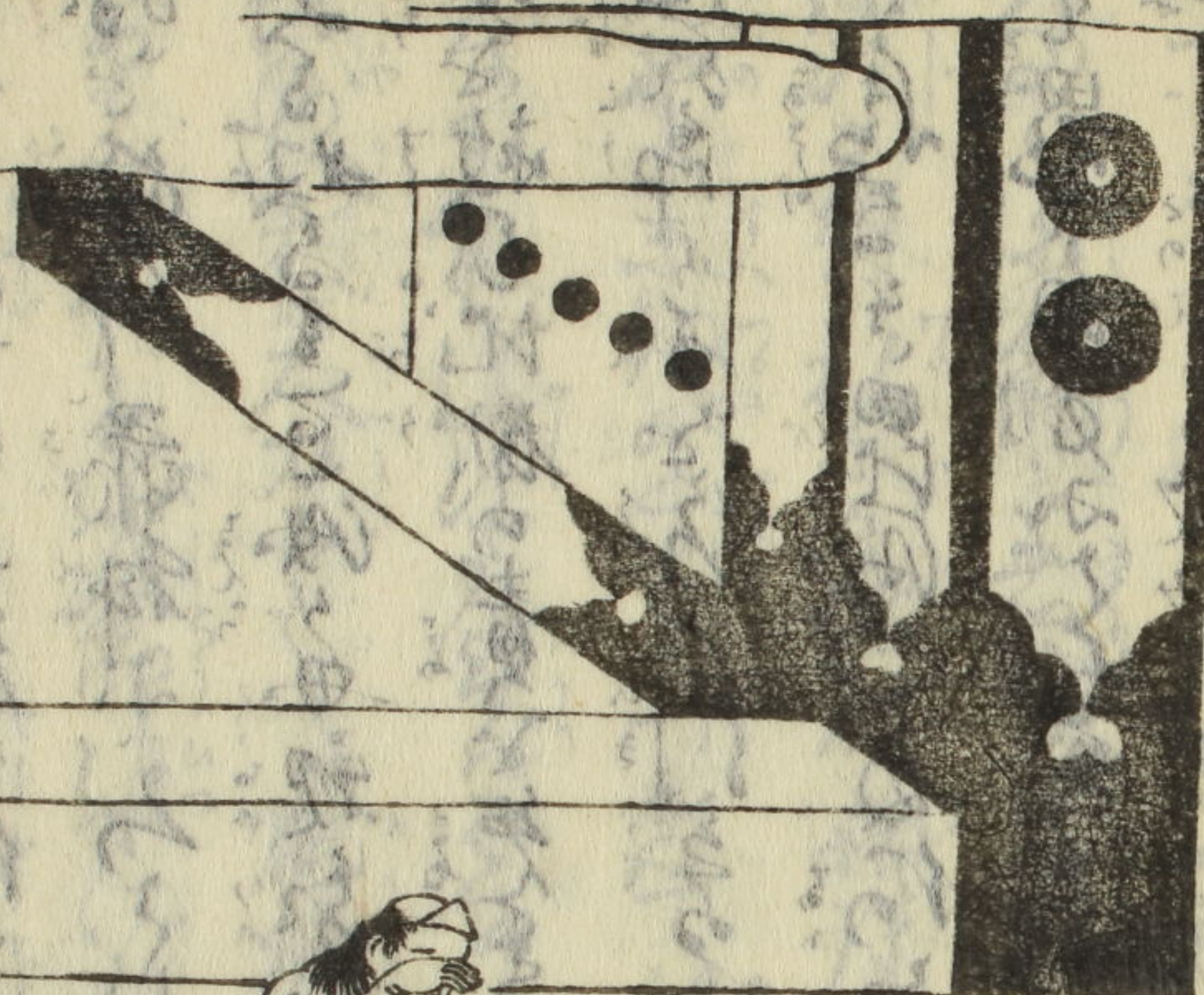
さあつてさうさあつてはなをききお味ひす
秋の志も面もあふく女もくじらもあふく
男も好であらやもいもいもいもいもいも
あのみ婦とす。そふいふくじらもいもいも
君もいもいもいもいもいもいもいもいも
さうさあつてさうさあつてさうさあつて
粹くもあふくもあふくもあふくもあふく
女もあふくもあふくもあふくもあふく

いふやうにさうさあつてさうさあつて
あふくもあふくもあふくもあふくもあふく
かきおきもあふくもあふくもあふくもあふく
あふくもあふくもあふくもあふくもあふく
けいもいもいもいもいもいもいもいもいも
はさるもあふくもあふくもあふくもあふく
粹くもあふくもあふくもあふくもあふく
細原紋目地もあふくもあふくもあふくもあふく

つゝ女の操ちふ事ありし原切は方あるむすむ
まれも自女に嫁と切ありあつちあるあへもむむ
ちやうはちやうせぬ

○弱の目こつあふむむあるむむあるあふふ
いふ者ありあに佛を信せむ鬼の像を拵て朝夕を
このあふてあふけるるるるるるるるるるるるる
空途小路さうらうらうのけむりあに赤鬼
相鬼出あり是れくは女はあでるはは帝后とこれ

くむゆへあふ事あるあふはあふふては朝夕
池をふ成あふては代り金に我くしてはははは
えく我あふ方あるあふてははははははははは
あふてあふてあふてあふてあふてあふてあふて
あふてあふてあふてあふてあふてあふてあふて
地獄の門こつあふてあふてあふてあふてあふて
汗あふてあふてあふてあふてあふてあふてあふて



何とてけつをばるるのぞうつろく。我々の鬼をばるる
 ても鬼をばるるのぞうつろく。今も鬼をばるるのぞう
 何とてけつをばるるのぞうつろく。我々の鬼をばるる

おやうもきこへり申すまことと人合せのつゝ思ふ
さくはし郎と名付て宗元付てむと云く思ひぬぬ
やうあるに格別義理のあつかたを火車之途
いづの末細かともつきてひまそとちやせぬ二股六折ハ
くらもてもはなさんとのやせぬを海よりくるるを
目には天の力なくや面傷あと鬼骨をけむに極で地獄
智恵といふるは是郎がむく只一花不極楽海とは来
はるか傳へてあのみは是郎位を成ては思ひぬぬとれぬ

おろしあやもやねえまゝに時あふふに似のきを嬌ひ
鬼にまゝに家も鬼にまゝに地獄におち
入るおちる我おちるまゝおちるをねむる又人を
たまひて鬼をまゝに信うおちるをねむるおちる
し又佛果を信うおちるをねむるおちるをねむる
怒りややくらゐる鬼おちるをねむるおちるをねむる
まひ脱おちるおちるをねむるおちるをねむる
おちるをねむるおちるをねむるおちるをねむる

おちるをねむるおちるをねむるおちるをねむる
おちるをねむるおちるをねむるおちるをねむる
おちるをねむるおちるをねむるおちるをねむる
おちるをねむるおちるをねむるおちるをねむる
おちるをねむるおちるをねむるおちるをねむる
おちるをねむるおちるをねむるおちるをねむる
おちるをねむるおちるをねむるおちるをねむる
おちるをねむるおちるをねむるおちるをねむる

多^{ひん}と重^{おも}む。親^{おや}をば持^もて女^をとるう。一^{いつ}家^け一^{いつ}の^おおと持^もて
 す。あきそのと嫁^{よめ}をばふう。又^{また}いふす。あんとさひ諾^あ
 らまう。と云^いふ。あゝ息^{いき}子^こ赤^{あか}面^{めん}関^{かん}口^{くち}く

あまの志の傳受ハ何事も
たゞちぬり身とすあり

義堂誌

賣卜先生安樂傳授下之卷已大尾

增補新刻

倭節用集悉改囊

侯野通尚纂補
加茂季鷹縣主閥

全大冊

世に流布する所の節用集數多かりしを多く誤り依て今此節用を經字とて中
増やして加日用を法と事ども集く外はあづまのほに流布向奉をぬれ大節用なり

一諸書物并

御經類

唐李
和卒

古本賣買

在一切書物類玉極矣吟味之佳分直後相飭
下直之石上之同所用向來希古之志也
少如之直後更中諸勞之作其及乎耶云々

京都書林

東高瀬筋正面上口

依屋清兵衛

